



常磐線全線開通に伴う健康被害の

不安を訴える記者会見開催！



福島県庁 2階県政記者室 14時（3月4日）の記者会見の様子

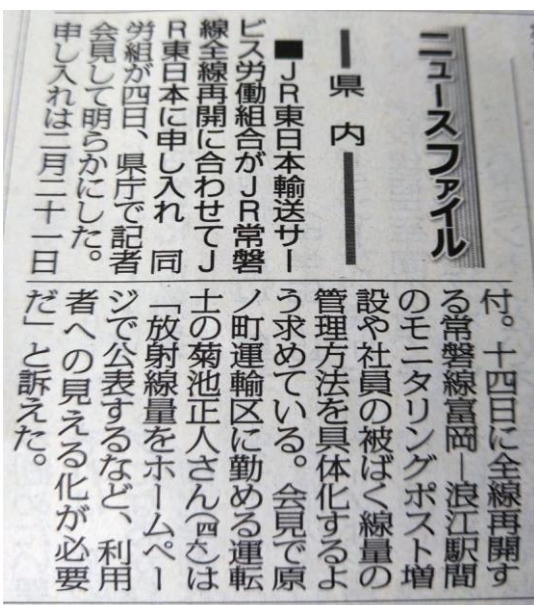
3月4・5日、JTSUと中央本部、水戸地本は「3・14ダイヤ改正で常磐線全線開通に伴う健康被害の不安について記者会見を開催しました。マスコミも2日間で延べ10社が集まり注目をされている中で、常磐線を担当する原ノ町運輸区の組合員が抱える健康被害への不安や、労働組合としての取り組みについて報告しました。

会見では、JTSU-E水戸地本・原ノ町運輸区の組合員よりリスクコミュニケーションの観点から、高線量区域を走行する列車の乗務員・利用者に放射線量をわかるようにするためのモニタリングポストの増設や、ホームページで公表するなど放射線量の「見える化」が必要と訴えました。また会社の健康管理体制についても問題点を指摘し、「全線再開後も積算線量計（ガラスバッチ）の携帯とマスクの配布を継続すべ

き」という声を紹介し、労働組合としても団体交渉などを活用して会社に求めて実現したいと述べました。

記者の方々は、私たちの乗務員・利用者の健康を守る取り組みに理解を示し、異常時の対応や会社の安全管理体制に対する質問が多く出されるなど予定時間を超えて質疑が活発におこなわれました。

常磐線の全線開通は私たちの悲願でもあります。そのためには乗務員や利用者が被ばくしない対策を講じて命と健康を守ることを最優先にしなければなりません。JTSUは今後もJTSU-Eと連携を強化し、組合員が安心して働くことができる鉄道を目指すための具体論と職場の問題点を広く発信していきます。



3月5日福島民報朝刊に掲載